

昭和大学新聞

学校法人 昭和大学
 発行人 小口勝司
 電話 (3784) 8000 〒142-8555
 東京都品川区旗の台1の5の8
 1部 50円 毎月1回発行

12月号の内容

- 1面
 - 令和2年度解剖慰霊祭
 - 本学のオンライン臨床医学教育カリキュラム
- 2面
 - 太田晴久准教授らの研究グループが発達障害の感覚過敏に関して解明
 - プレストセンター開設10周年
 - 石川絢司講師が優秀演題賞を受賞
 - 落合翔さんが若手優秀賞を受賞
 - 神崎俊治技士が優秀演題賞を受賞
- 3面
 - 富士吉田キャンパスの思い出
 - 推薦入試・編入学試験を実施
- 4面
 - 「新しい生活様式」における私のステイホーム
 - 就任のお知らせ
 - 昭和大学各附属病院へのご支援の状況
 - 昭和大学サポート寄付金寄付者氏名
 - 昭和大学ブルーウインズが横浜市長杯で優勝

【問合せ先】

【本紙について：総務課出版・WEB係】
 03-3784-8059
 press@ofc.showa-u.ac.jp
 【各種募金・寄付について：企画課】
 03-3784-8387
 【学事について：学務課・大学院課・入学支援課】
 03-3784-8022 (旗の台)
 0555-22-4403 (富士吉田)
 045-985-6503 (横浜)
 03-3784-8026 (入学支援課)

令和2年度解剖慰霊祭



黙祷を捧げる参列者一同



祭文を捧げる中村雅典教授



献花の様子

令和2年度解剖慰霊祭が10月20日、上條記念館にてしめやかに執り行われた。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、感染対策を講じたうえで一部の教育職員と学生代表のみが参加した。

解剖慰霊祭は医療の進歩のため、ご献体された故人の遺徳を偲び感謝する式典。令和元年9月1日から令和2年8月31日までにご献体

いただいた106柱の霊位が祀られ、参列者からご尊霊に対し、黙祷が捧げられた。その後、参列者全員が祭壇に献花を行い、ご冥福をお祈りした。

式典では、中村雅典教授（歯学部口腔解剖学講座）が「医学教育と医療の発展のために解剖を承諾され、ご遺体を供して崇高なるご遺志を示された諸霊に感謝いたします。医療発展のため

に真摯な努力を怠らず、今後も医学・歯学・薬学・保健医療学の向上と社会福祉に寄与するために努力を重ねることをお誓い申し上げます」と祭文を捧げた。

また、医学部と歯学部の学生代表が「新型コロナウイルスにより医療の重要性と更なる進歩の必要性を実感するとともに、この新たな時代のなか、私たちは社会に役立つ優れた医療人を目指す。指し勉学に励んでおります。その中で特に解剖学実習は、将来医療に携わる者としての自覚や人間性を培うため

に、なくてはならない実習です。ご献体くださいました皆さま、ならびにご遺族の皆さまの尊い思いを深く心に刻み、限らない感謝の気持ちを捧げるとともに、我々の目指す医療人像に向けて精進してまいります」と弔辞を述べた。

共有を図るとともに、海外見本市への出展、個別相談、パイロット事業の支援等を実施し、海外展開モデルを形成することで、日本型教育の海外展開を促進する。

鈴木講師らは、新型コロナウイルス感染症の影響により休止になっていた臨床実習の代替案として、バーチャリアリティ（VR）型臨床医学シミュレーションソフトウェア「Body Interact」を導入。学生が所有する情報端末を介した新しい臨床医学教育として「ICTを

用いた新型医学教育システム（ICT mediated medical education（通称：ime、アイミー））を発売した。

Body Interactにより学生は自宅にいながらパソコン等を用いて、バーチャル模擬患者の診療をシナリオプレイで学修することができるようになり、教育職員はimeでそのプレイ状況を管理・評価が可能となった。また、オンライン会議システムZoomを用いて、シナリオのデモ・プレイをライブ配信し、実際の臨床現場での注意点、教育職員の臨床経験を基に解説を加え、質疑応答も行える。

鈴木慎太郎講師
 土屋静馬准教授のコメント
 2020年は新型コロナウイルスと人類の激しい戦いが行われた年でした。単なる新興感染症ではなく、フィジカルディスタンスやマスクの常時着用、リモートワークなど、人々の生活様式を大きく変容させ、それらはWithコロナ時代のニューノーマルと呼ばれています。医学教育の分野にもこの荒波は襲ってきまなりました。全国で流行が盛んになった3月以降、本学医学

部でも講義や実習を続けるか否かの決断が迫られました。感染防止から学生の健康を保持するため、大学キャンパスのロックダウンと臨床実習の中止が決まりました。

しかし、小風暁医学部長からの「医学部生の学ぶ手を止めない」という号令の下、私どもが以前から臨床医学教育に試用していたシミュレーションソフトウェアBody Interactを利用するのはどうかとお声がかかりました。私どもおよび相良博典教授は以前より基礎・臨床統合型カリキュラムを終えた医学部生の臨床実習において、Body Interactを活用し、学生のアナフィラキシーショックに関する病態学修・診療技能の向上に努めてきました。時幸いにして、

Body Interactを使ったシナリオの反復学修による長期学習効果に関する研究を計画していた矢先の出来事であり、とても円滑に医学部5年生、6年生の臨床実習の代替案として導入することが可能となりました。

臨床医学教育改革ワーキンググループでも既にICTを活用した新しい医学教育のビジョンを描いて行動していたため、全国の医学部に先駆けてオンラインで教育職員と学生がインタラクティブに教育・学修を推進することに成功したと考えています。

その後、科学研究費助成も決まり、国が目指す新たな医学教育のニューノーマルに適合した教育カリキュラムを昭和大学が独自に立案・実行できたことが可能性から確信に変わりました。初めての試みでしたが、通信上のトラブルや学生のICTリテラシー不足など解決すべき問題も散見されましたが、現在ではいずれも解決され、新たに医学部4年次での演習も開始し、ICTを積極的に活用する昭和大学の新たな医療人育成の先鞭をつけ、更なる飛躍の土壌を形成でき

たのではないかと自負しております。

現在、我々は次年度の新2年生から導入される新医学部カリキュラムにも講義内でのBody Interactによるシミュレーション教育を取り入れ、医学部生の自主学修の効率が向上できるよう計画を練っています。

高等教育におけるICT活用およびシミュレーション医学教育の分野で昭和大学が日本一、さらに世界一になることを目指して邁進いたします。

末筆になりますが、本カリキュラムに対してご支援・ご指導を賜った久光正学長、木内祐二副学

長、泉美貴医学教育推進室長、中村明副センター長（総合情報管理センター）、田中明彦准教授（医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門）、株式会社内田洋行の関係者各位に改めて感謝申し上げます。

（左）鈴木慎太郎講師、（右）土屋静馬准教授

健康応援オーケストラ

株式会社 メディセオ

東京本社/〒104-8464 東京都中央区八重洲二丁目7番15号 TEL/03 (3517) 5050 (代)
 URL/http://www.mediceo.co.jp



（左）鈴木慎太郎講師、（右）土屋静馬准教授

太田晴久准教授らの研究グループが解明 ASDとADHDで共通感覚過敏の原因部位

太田晴久准教授(昭和大学 発達障害医療研究所)らの研究グループは、感覚過敏と関連する脳白質神経線維走行(脳内結合と関係)の障害が、自閉スペクトラム症(ASD)と注意欠如多動症(ADHD)で共通して脳梁において認められることを報告した。本研究は、感覚異常をはじめとする発達障害特性の原因について、診断カテゴリーにとらわれずに究明していく必要性を示した。

本研究結果は英科学誌の『Molecular Autism』(2020年10月19日オンライン掲載)に掲載された。DOI: 10.1186/s13229-020-00379-6

ASDとADHDは、共に神経発達障害の一種である。ASDは対人コミュニケーション障害とこだわり行動、ADHDは不注意(衝動・多動性といった特性を主な症状とする。両障害は全く異なる症状を持つことから、それぞれ独立した診断カテゴリーに分類されている。しかし、実際には両障害は非常に並存しやすく、現状の診断分類の妥当性についても、脳の構造や機能の観点から検証していくことが求められている。

ASDとADHDに共通してみられる代表的な症状として、感覚過敏を中心とする感覚の異常が挙げられる。ASDでは診断基準にも含まれているが、ADHDでも同様に存在し、当事者に大きな苦痛をもたらす。また、近年では発達初期からある感覚の問題によりASDの対人コミュニケーション障害が構築される可能性が指摘されており、発達障害の主症状の原因をなす

基礎的な問題としても注目されている。

今回の研究では成人のASD(105名)、ADHD(55名)および健常発達者(58名)に対して、MRIを用いて脳白質神経線維の走行を測定した。脳白質には脳の部位間を繋ぐ役割があり、発達障害の特性をもたらす要因として注目されている。

結果、ASDとADHDでは脳白質神経線維走行が障害されている部位(脳梁)が共通していることが明らかとなった。更に、それらの部位における脳白質神経線維走行の障害の程度と感覚異常の重症度との関係性はASDとADHDで類似していることが今回の研究で示された。

これらのことは、ASDとADHDは脳白質神経線維走行に関して共通した脳

石川絢司講師が 優秀演題賞を受賞 第22回骨粗鬆症学会

石川絢司講師(医学部整形外科講座)が、第22回骨粗鬆症学会(10月9日から11日、WEB開催)で、優秀演題賞を受賞した。

同学会は、原発性および続発性骨粗鬆症ならびに関連する疾患や病態を含め、基礎的・臨床的研究の進歩・発展を図り、社会の福利厚生に貢献することを目的に設立され、8,953名(2020年3月31日時点)の会員数により構成されている。

石川講師は「新たな骨粗鬆症治療薬(Romosozumab)が整形手術に及ぼす影響: A prospective study」の発表が高く評価され同賞に選定された。

石川絢司講師のコメント

骨粗鬆症学会の受賞に際し、関係各位に心より感謝申し上げます。超高齢社会において骨粗鬆症は喫緊の課題として社会的関心も高く、内科領域・外科領域・看護領域と演題内容も多岐にわたります。どの研究も非常に興味深く、我々の研究を評価いただいたこと、大変光栄に思います。当講座では、稲垣克記主任教授を中心に、阪本桂造客員教授・永井隆士准教授が骨粗鬆症専門外来を行い、長年研究を重ねてまいりました。実際、様々な研究から、「骨の質」は手術成績に大きな影響を及ぼすことが分かっており、高齢者の手術には難渋することがあります。

私の研究目的は「高齢者における整形手術において、良好な長期成績を獲得すること」にあります。本演題では、手術成績向上のための新たなアプローチとして、骨粗鬆症薬治療法(Romosozumab)の有効性を有限要素解析(構造物を複数の有限個の要素に分割して数値解析を行う手法を用いて見出しました。本研究は脊椎外科センターの豊根知明教授の指導と大学院生の谷聡二先生・土谷弘樹先生・岡

落合翔さんが 若手優秀賞を受賞 第93回日本生化学会大会

薬学部社会健康薬学講座 衛生薬学部門の落合翔さん(薬学研究科3年)が、第93回日本生化学会大会(9月14日から16日WEB開催)で、若手優秀賞を受賞した。

同学会は、生化学の推進を目的とし1925年に創立された歴史ある学会である。約8,000名の会員が所属し、毎年1回学術大会が開催されている。

落合さんは演題名「出血性膀胱炎におけるプロスタグランジン最終合成酵素の機能解析」の口頭およびポスターにおける発表が評価され同賞に選定された。

落合翔さんのコメント

このたび、歴史ある日本生化学会大会においてこのような賞を頂き大変嬉しく思います。日頃より指導下さりました衛生薬学部門の原俊太郎教授をはじめ、研究へご助言頂きました先生方に感謝御礼申し上げます。

本研究は、がん治療や自己免疫性疾患治療等に広く用いられるシクロホスファミドの副作用である出血性膀胱炎に着目し、

医学堂書店

品川区 旗の台
電話(03) 3783-9774

神崎俊治技士が 優秀演題賞を受賞 第30回日本臨床工学学会

神崎俊治技士(江東豊洲病院臨床工学室)が、第30回日本臨床工学学会(9月29日・30日)で、優秀演題賞を受賞した。

同学会を主催する日本臨床工学技士会は、生命維持管理装置をはじめとする機器に支えられた医療・福祉の信頼性の向上に努め、もって国民の医療・福祉の進歩充実に寄与することを目的に1990年に設立された。

神崎技士は「Thromboelastographyからみた急性A型大動脈解離患者の血小板機能と体外循環の検討」の発表が高く評価され同賞に選定された。

神崎俊治技士のコメント

このたび、第30回日本臨床工学学会において608演題の中から優秀演題賞に選定していただき大変光栄に存じます。急性A型大動脈解離の手術においては、術前から存在する消費性凝固障害の影響や手術に用いる超低体温循環停止の関与により他の手術と比較し出血量が多

プレストセンター開設10周年 記念式典を上條記念館で開催

昭和大学病院プレストセンター開設10周年記念式典が11月2日、上條記念館で開催された。

同センターは、2005年に小口勝司理事長の呼びかけをきっかけに、本学の外科から乳腺外科を独立させ、プレストセンターを設立する構想が立ち上げられたのが始まりである。そして当時、聖路加国際病院でプレストセンター長を務めていた中村清吾教授(医学部外科学講座乳腺外科学部門)をセンター長に据えて2010年6月に開設した。

その後、センターの発展とともに江東豊洲病院プレストクリニック、藤が丘病院プレストセンターを次々に開設し、昨年度は年間手術件数を600件突破と開設より躍進を続けている。

式典では、10周年を祝うとともに新型コロナウィル



挨拶を述べる中村清吾教授

ス禍で奮闘する病院職員の英気を養うため、ヴァイオリン2人の松本蘭氏を招いてピアノ伴奏とともに演奏が披露された。そのほか、中村教授の挨拶や学内・学外関係者から祝辞が贈られた。



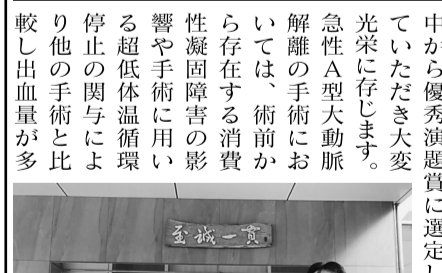
演奏の様子

村博輝先生の多大な努力に支えられており、私は一部を担ったに過ぎません。その他にも山梨赤十字病院の今野述院長と骨粗鬆症外来スタッフ皆様の協力なくして達成できませんでした。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。本研究内容が



(左)原俊太郎教授 (右)落合翔さん

日々の臨床に生かされ、より多くの患者さんに貢献できよう、今後も精進してまいります。



(左から)大石竜統括技士長(統括臨床工学室)、神崎俊治技士(江東豊洲病院臨床工学室)、西堀英城技士長(同)

本研究においては、日頃よりお世話になっている循環器センター山口裕己教授をはじめ、大石竜統括技士長、西堀英城技士長そして研究に関わった仲間へ感謝したいと思っております。そして、この場をお借りして入職時よりご指導いただいた先輩方へ厚く御礼申し上げます。

富士吉田キャンパスの思い出

全寮制による初年次教育を行う富士吉田キャンパスから11月2日、学生が退寮した。今年度は新型コロナウイルス禍により入寮が延期となり、入寮式がおよそ5か月遅れの8月31日に執り行われたため、約2か月間の寮生活となった。最終日前日にはハロウィンパーティーを開催し、1年生は最後の思い出を作り、翌日に名残惜しみながら富士吉田の地を後にした。



医学部1年 藤田 鉄平

自分たちの上に広がる夜空に、空っぽにドーンと咲き誇る大きな花火とともに、2020年ハロウィンパーティーは終わりを告げました。

新型コロナウイルスの影響で入寮前は大学での楽しみがほとんどなく、日々授業をこなすだけの生活が続いていました。このような状況で、心待ちにしていた入寮が決定し、とても喜んだのを覚えています。前代未聞の特殊な寮生活となりましたが、新たな歴史をつくるため、私たちは10月にハロウィンパーティーの準備を始めました。

実行委員長に任命されたとき、私は「自分にこのような大役が務まるのか」という不安でいっぱいでした。しかし、それぞれの部門長の募集を始めると、フロアメン(同フロアの寮生の略称)が次々に力を貸してくれ、不安は「絶対に成功させてやる」という執念へと変わっていききました。このように、部門長をはじめとする実行委員、事務課の方や先生方、食堂の方など多くの協力がなければ、開催が叶わなかったと思います。本当にありがとうございました。



午前中はドッジボールで白熱し、午後はビンゴ大会とイベントでワクワクしながら会場が一体となって盛り上がり、今年は大変的に実施した立食パーティーも大成功、そして最後を飾る、息をのむほど大迫力の花火。次の日が退寮なのを忘れるほど、密度が濃くて、楽しい素敵な思い出となりました。



歯学部1年 竹澤 蘭々

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちは前期授業のオンライン受講を余儀なくされました。当時は、入学したばかりということもあり、友達をつくることもできず、ただただ課題に追われる日々を過ごして心身ともにかなり追い込まれていました。しかし、8月末に入寮した

からは、これまでの生活とは一変してとても充実した日々を送れるようになりました。なかでも印象に残っているのは、初年次体験実習です。その第1期に行われたPBLチュートリアルでは、ある与えられたテーマについてグループで議論したうえで、問題解決に導くといったワークを行い、将来のチーム医療に必要な職種連携の基礎を身に付けることができました。さらに、第2期に行われたBLS実習では、人形を使って胸骨圧迫や人工呼吸の方法を、実践を交えながら学ぶことができました。また、第3期に行われた学部実習でも、グループディスカッションやエプロン掛けの練習などを行い、3



年次実習において必要な知識の基礎を学ぶことができました。これらは、自宅では決して体験することのできない、貴重な経験であったと思います。今回の初年次体験実習を通して学んだことを、これからの学修に活かし、将来の歯科医師として患者さんに質の高い医療を提供できるように、日々勉学や実習に精進していきたいと思っております。



薬学部1年 渡辺 佳愛子

4月、私は新たに始まる大学生活と寮生活に胸を躍らせていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で入寮は延期になり動揺を隠せませんでした。入学式もないまま始まった遠隔授業は友達もできず、一人パソコンに向かう日々が続きました。本当に自分は大學生になったの



か、これからの大学生活はどうなってしまうのかと不安ばかりでした。7月、後期から入寮ができると連絡が来たときは非常に嬉しかったです。入寮後は敷地外に出られないという厳しい制限もありましたが、毎日が修学旅行のように楽しく、勉強面では部屋の仲間が積極的に

授業の復習に誘ってくれたため一人で勉強していたとは異なり効率的な学修ができました。生活面では他学部との交流により、多様な価値観に触れることができました。百合寮の寮長としては、どのようにすればお互いに気持ち良い生活を送れるかを試行錯誤しました。また、自分たちで問題を解決しながら自立した生活を送るという点を強く意識させられました。



保健医療学部 理学療法学科1年 相原 海星

今年度は、新型コロナウイルスの影響で入寮が遅くなり、前期は自宅でのオンライン授業を受けました。外での運動が出来ず家の中にいることしかできず、家ではなれない手つきでオンライン授業を受け、課題に追われる日々でした。入寮後は、学生の間で同じ運動がしたい人たちが集まり、サークルを設立することができました。設立前までは、自身の道具を各家庭から送ってもらうか事務課から借りて施設を利用していました。設立後は各サークル会長管理のもと部屋から備品が使用可能になったため、より多くの人数で活動が可能になりました。

私はサークル活動においてハンドボールサークルの会長と運動部全体の会長として、運動系サークルの会長達をまとめてきました。サークル活動が盛んになつてくると、他学部との交流が多くなり、学部連携授業なども話し合える仲間が多くなりました。経験者中心で活動するところが多くなり、初心者も混ざって活動ができたため複数のサークルに入り、日によって行くサークルを変えることが出来ました。これは、富士吉田の寮生活ならではの日常だ

と想います。活動最終日が近づいてくると運動系サークルは試合、文化系サークルはウィンターパーティーの発表に向けた練習と、更に活発的になりました。最終日まで皆の笑顔が絶えず寮生活を過ごせたことが一番の思い出になりました。



推薦入試・編入学試験を実施 合計で221名が合格

令和3年度学校推薦型選抜入試・編入学試験が11月28日、旗の台キャンパスで実施された。今年度から合格証とホームページのみで発表する運用となり、掲示板前で受験生が自分の番号を確認する光景はなくなった。11月3日には医学部附属看護専門学校でも推薦入試・学士・短大士選抜入試が行われ、今年も多くの志願者が集まった。詳細は表のとおり。

学部	試験区分	試験日	募集人員	志願者数	合格者数	
医学部	推薦	11月28日	2	2	2	
歯学部	推薦		25	46	25	
	編入学		若干名	14	4	
薬学部	推薦		55	77	46	
保健医療学部	推薦		34	103	34	
	編入学		10	3	2	
理学療法学科	推薦		5	10	5	
	推薦		10	8	6	
医学部附属看護専門学校	推薦		11月3日	約70	117	82
	学士			約10	46	15

生協は学園生活のパートナーです



昭和大学生生活協同組合

旗の台 3788-2322(内線)8268 アミ 3785-9729(内線)8369
吉田 0555-23-8505 洗足 3787-4432 横浜 045-985-9624

就任のお知らせ(11月10日 理事会承認)

臨床薬理研究所 教授(員外)
(勤務地: 昭和大学臨床薬理研究所)
三浦 淳
現: 北海道科学大学薬学部薬物治療学分野 教授
任命日: 令和3年4月1日

医学部内科学講座(呼吸器アレルギー内科学部門)担当 教授(員外)
(勤務地: 昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター(呼吸器内科))
松倉 聡
前: 医学部内科学講座(呼吸器アレルギー内科学部門)担当 准教授
(勤務地: 横浜市北部病院呼吸器センター(呼吸器内科))
任命日: 令和2年12月1日

医学部産婦人科学講座担当 教授(員外)
(勤務地: 横浜市北部病院外科系診療センター(産婦人科))
市塚 清健
前: 医学部産婦人科学講座担当 准教授
(勤務地: 横浜市北部病院外科系診療センター(産婦人科))
任命日: 令和2年12月1日

薬学部薬学教育学講座 講座責任者
小林 靖奈
現: 薬学部薬学教育学講座(教育企画・評価学部門)担当 教授
任命日: 令和2年12月1日

昭和大学各附属病院へのご支援の御礼

新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者に対して、多くの皆様から労いのお言葉や心温まるご支援を頂戴しております。お気遣いに心から感謝申し上げます。

現在、本学各附属病院では、医師、看護師の他、多くのスタッフが治療や院内感染防止に一丸となって取り組んでおります。今後も私たちは皆様からのご支援を力に変え、引き続き安全・安心な医療の提供に努めてまいります。

皆様からのご支援に対し、重ねて御礼申し上げます。

ご支援くださった方々
(一般の方)
プレストセンター患者様 / 田中様(患者様)
小林 洋子様(患者様) / 匿名

(企業・団体)
lucaemma / 株式会社アインファーマシーズ
花王株式会社 / 第一三共ヘルスケア株式会社
一般社団法人 日本心血管インターベンション治療学会
横浜市立荏田南中学校 / たなか歯科クリニック
公益財団法人 日中医学協会 理事長 小川 秀興様

ご支援の内容
フェイスシールド / バルーンアート / マスク
美容ドリンク / 保湿クリーム・シャンプー
バルーン人形 / お菓子 / 寄付金
中学生からのメッセージ

※順不同 11月30日時点

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

学校法人昭和大学奨学基金への寄付
【職員】
鶴飼 直紀様

昭和大学病院への寄付
【一般】
東京都騎手会様

その他への寄付
【職員】
宮下 元様

「新しい生活様式」における私のステイホーム
薬学部 基礎薬学講座 薬化学部門 伊藤 喬

歴史上の出来事ではなかった「パンデミック」が実際に起こって、世の中の多くの「当たり前」が変わってしまった。卒業研究を通じて学生の成長を促してきた基礎系の教育職員として、コロナ禍で学生にどのようなアプローチすれば良いか、当初は途方に暮れていました。しかし、日々変化する感染状況や社会情勢を目的に当たりするうちに、考え次第では、この時期にしか得られない貴重な経験をしているのだと思うようになりました。将来医療に関わる学生達にとって、コロナ禍を同時代人として体験したことが記憶に深く止まり、普段の講義や実習では得られない彼らの成長

につなげるかも知れないと考えたのです。現在、日本や世界各国のコロナ関連の情報の多くはインターネット経由で無償アクセスでき、欧米の専門誌、新聞、ニュースサイト等が毎日積極的に最新情報を発信しています。そこで、これらを学生と共有し、彼らと共に考える材料にしようと考えました。研究室には学生が約30名在籍していますが、彼らとLINEグループを作り、4月6日から現在まで、ほぼ毎日その日発表されたコロナ関連情報のURLと、その内容に関する自身のコメントを送信して共有し、時折Zoomミーティングを用いて議論をしています。情報収集も学生との対話も、スマートフォンがあればどこでも可能です。コロナ禍によつて、ステイホームしながら時間帯にとらわれず学生と交流できるようになった、と良い方へ考え、場所や時間の縛りがない状況で、学生により深く関わるためにどうするか、更に工夫を重ねているところです。

社会にとつて大変不幸な状況ですが、これを当事者として緊張感の中で体験し、そこから多くのものを学び取ることは、学生の将来にとって大きな財産になります。コロナ禍の中で医療の様々な側面を学び、成長した学生と共に、できるだけ近いうちに、「パンデミックの終焉」を見とどけたと考えています。

昭和大学女子アイスホッケー ブルーウィンズが優勝
第31回横浜市長杯

昭和大学女子アイスホッケーのクラブチーム「ブルーウィンズ」が10月31日、第31回横浜市長杯の決勝戦でハセガワウィッチーズと対戦し、6対0で優勝した。

この優勝により、ブルーウィンズは関東ブロック予選会出場への切符を獲得した。

ブルーウィンズには本学職員4名が選手として参加しており、そのほか理学療法士の須山陽介講師がフイジカルコーチとして選手のケアやトレーニングメニュー等の作成を行っている。

選手たちのコメント

DF 昭和大病院 管理栄養士 佐々木 陽
FW 昭和大病院 看護師 下本 麻美

日頃より多大なるご支援、ご声援ありがとうございます。

横浜市長杯にて優勝することができました。たくさんの方々の応援やサポートがあつたの結果だと思えます。これからもアイスホッケーができる環境に感謝して、頑張っていきたいと思っておりますので、応援よろしくお願いたします。

皆様の応援のおかげで横浜市長杯を優勝で終わることができました。今後は、関東ブロック予選会へと進んでまいります。引き続き、応援よろしくお願いたします。



カタログギフト 手配いたします

旅行 食事券 体験型スイーツ 和牛専門 など

のし・包装もお任せ

昭友商事株式会社 3784-8280

いつも多大なるご支援やご声援をいただき、誠にありがとうございます。この1年は昨年の悔しさをバネに、チーム一同練習に励んでまいりました。この結果に満足することなく、全日本選手権出場へ向け、日々精進してまいります。今後とも、応援のほどよろしくお願申し上げます。

感染対策の制約の中でも練習を重ねてきた成果と勝利への思いが結果に繋がったと感じます。昨年の雪辱を果たし目標に向けて一歩前進できた事を大変嬉しく思います。多くの方に支えられて活動できています。改めて感謝申し上げます。

藤が丘病院 事務職員 大内 裕 愉
学事部 事務職員 渡邊 百合子